

陳 情 文 書 表

受 理 番 号	第 2 号
受 理 年 月 日	令和2年5月26日
件 名	超高齢化社会に対応した和光方式の拠点に旧中島邸活用についての陳情
陳情者の住所 及 び 氏 名	桐生市天神町3丁目14-36 桐生令和の会 代表 長澤 健二
陳 情 の 要 旨	<p>趣旨</p> <p>旧中島邸の寄付を受けてから、数年が経っていて使用も決まっていない。維持費の費用だけが支出されている状況である。又、将来の使用も決まっていない状況であり、市民として旧中島邸を高齢者施設等に使用するよう陳情する。ある人に聞いた話ですが、元大澤桐生市長と中島邸の寄付にあたっては中島氏側と老人施設にする取り決めがあったそうである（伝聞ですが）。桐生市高齢化率が平成29年10月1日現在34%である。高齢者人口で39,168人になる。桐生市梅田1丁目にある、みんなの茶の間では、水曜日になると車が道路にあふれている。水曜日は麻雀が開催され、当初の1卓から5卓になったときいている。又、埼玉県和光市では和光方式といって高齢者をできるだけ外出する方法をとっていて、その中で麻雀等開催し、医療費の削減等効果がでており、全国から視察が訪れているとのことである。私は、この方式を調査し採用するように長寿支援課にお願いに何度も行きましたが聞き入れるどころか「しません」の回答だけである。当時桐生市は、県下一、健康保険料が高額であった、私の調査した限り、長野県の2倍もの国民健康保険料であった。長野県では高齢者の有業率が高く、一人当たりの老人医療費が最も少ない県のひとつであることがわかった。公民館活動が活発で生涯学習に力をいれており、平均寿命は全国1,2を争っている。日本人の平均寿命の差は10年ある。要するに要介護期間が10年もあることです。単身世帯の生活費は月15万円程かかると言われており、高齢者が外出し、健康になれば医療費の削減、経済活動の活性化にもなる。全国的に人口減少が進み、桐生市だけ増加することはない。健康で、長生きするようにする方が人口減少に少しは歯止めになると思う。是非和光方式を取り入れて、旧中島邸をその拠点にしていきたい。</p>
付 託 委 員 会	教育民生委員会
審 査 結 果	